


【個人】

提出 平成 30年7月16日

山 行 報 告 書

山行報告提出者 : 鈴木

山 域・山 名： 羅 臼 岳 (1,661m)		(北海道目梨郡羅臼町)
入山日：平成30年7月10-12日 (火-木) 2泊3日 帰宅日：7月14日		
プラン担当者 正：鈴木 副：		羅臼平から羅臼岳を臨む
参 加 者	L：報：記： 鈴木	
	男 1名、女 名、計1名	
天候：7/10 朝雨、のち曇り 夜雨 7/11 昼まで雨 のち曇り 7/12 晴れ 時々曇り		
月 日()	集合時間： なし	
7月10日 (火)	5：00 起床 岩尾別木下小屋発 09：15-11：00 仙人坂 11：15-13：30 羅臼平 (テント設営) 14：00-14：50 羅臼岳 14：50-羅臼平 15：30 着 (テン泊) 行動6h15	
7月11日 (水)	午前中風雨強く羅臼平テン場にて終日停滞。 行動0h00	
7月12日 (木)	02：00 起床 03：30 発-04：00 三峰-07：00 ニッ池- 08：00 南岳脇-09：15 知円別岳脇-10：30 硫黄山分岐-11：30 沢出合-12：20 新噴火口-13：15 硫黄山登山口下山 木下小屋まで車道歩き 17：45 着 行動14h15 (木下小屋泊)	
7月13日～ 14日 (金-土)	知床、網走方面で観光し、 7/14 女満別 13：40 発ADO078 便で羽田 (15：35 着) へ	
荒天候時のエスケープルート： 引き返す		
装 備 と 食 糧	共同装備：共 同 食：車提供者： なし	
	個人装備： テント1式、マット、シュラフ、虫よけスプレー、防虫ネット、ストーブ、コッヘル、コップ、箸、ヘッドランプ、雨具、防寒着、コンパス、地図、ストック、アインソ、グローブ、テルモス(水)、浄水器、帽子、サングラス、日焼け止め、携帯トイレ、熊避鈴、笛、カメラ、医薬品、ラジオ 個人食： 食事×7、行動食	

感想	<p>7/10 夜半からの雨が止まず、朝風呂に入り小屋でくつろぐ。</p> <p>8時ころ雨があがったため装備を整え9時頃に出発、2か所の水場をスルーするが後の行程変更により大後悔を強いられる(後述)。テン場で設営後、明日登頂予定の羅臼岳を今日登ることを思い立ち登頂する。</p> <p>羅臼岳後半は歩きにくい岩場が続き不明瞭なペンキマークを頼りに山頂に立った。</p> <p>昨日に続き今回もウトロ側から強烈なガスがあがり眺望は得られず。途中あった水場は1秒1滴程度の水場でとても取水出来る所ではなかった。</p> <p>7/11 昨夜から強い雨が降り続け停滞を強いられる。羅臼岳も昨日一応登ったので、明日は帰路に就くことも頭をよぎったが、天候次第ではまだ縦走を諦めまいと狭いテントのなかで心を奮い立たせた。</p> <p>結局この日取水ができず、2日間を2Lの水で耐え忍び、せっかく担ぎ上げた酒類も喉が渇くため持ち帰る羽目となった。</p> <p>通常あれだけの強い雨ではテント内の装備品に相応の濡れが生じるが、今回のテン場が粗い砂地で微妙に緩い傾斜があったため足元以外ほとんど濡れずのんびり停滞出来た。三ッ峰やニッ池ではもっと濡れていたと予想する。</p> <p>7/12 前日寝続けていたため2時起床もなんのその、晴れの予感にはやる気持ちをおさえながらテントをたたむ。3時にはすでに明るくなりはじめ3時半の早朝発にかかわらずヘッ電不要で長い縦走路の一步を踏み始める。</p> <p>硫黄山まで4山の登り返しがあるがほとんどの登山道が山頂を踏まないトラバース道でありほっとした。枝切されていてもなお遠慮なしに体を引っ張る這松帯や泥炭地、いつ崩れてもおかしくないガレ場などの悪路に行く手を阻まれる反面、オホーツク海に浮かぶ知床半島の雄姿に息をのみ、一面に広がるお花畑とそれに続く弧を描いた登山道に心を癒され縦走路を一人もくもくと歩く。硫黄山は結局下山後の長い車道歩きも考え断念し、終盤を迎えた下山口へ向け縦走できそうな予感に一人ほくそ笑む。下山口にはカムイワッカの滝見物の客が車で多数来ていたが、乗せろとか乗るかとかのやり取りも無いまま木下小屋まで4h15かけて歩いた、心底疲れた。</p>
----	---